2009年度春学期　チューター業務を振り返って

所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	青木ゼミＦＹＳ

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

私がＦＹＳのチューターを志望した理由の一つに、私自身が青木ゼミのＦＹＳを受講していなかったということがあります。２年前の春、私は広告に興味があるにもかかわらず、青木先生のＦＹＳを受講することができなかったので、もう一度ＦＹＳを受講する気持ちでチューターを志望したのです。また、チューター制度は今年から始まった新しい取り組みということに大変興味を持ち、さらに、先生といろいろな話をさせていただく良い機会だとも感じました。

私の主な仕事内容は、授業参加と１年生のサポートだと聞かされていました。しかし実際は１年生の質問や相談を受けることはほとんど無く、授業参加が中心でした。授業内容は個人やグループワークでのプレゼン発表で、私は質疑応答の時間に毎回意見を求められました。ただプレゼンを聞いて質問するだけでは講義を受けているゼミ生と同じなので、私はチューターとして、３年生として、質問するときに２つのことを心がけていました。１つは的確な質問をすることです。ただ自分が疑問に思ったことだけでなく、私がこれまでメディアに関する授業で学んだことを生かして質問を考えるようにしていました。また、質問する際の口調や態度にも気をつけました。もう１つは、意外性のある質問をすることです。私は毎回質疑応答の最後に意見を求められていたので、できる限り皆と違った切り口で質問を考えるよう心がけていました。毎週の授業参加以外にも、図書館ツアーの手配や私も１年生の前でプレゼンするなど、普段はできない経験をすることができました。

私はチューターの仕事をしている最中、講義のお手伝いをしているというよりは、自分を成長させてもらっているという意識がありました。周りが後輩ばかりという慣れないフィールドの中で自分を試すことができる、貴重な機会だったと思います。だから私も、３年間で学んできたこと、経験してきたことをフル活用して授業に臨みました。特に１年のゼミ生の前で「自分広告」のプレゼンをした時には、先生に「３年生らしい、かつ１年生にもわかりやすい発表を」と言われていたプレッシャーもあり、プレゼン資料を何週間も前から準備したり、先生相談して添削していただいたりしました。そしてなんといっても私にとってのチューターの醍醐味は、１年生の新鮮な感覚に触れることができたことです。同じ大学生でも、まったく違う考えを持つ人たちと交流できて、とても面白い経験ができました。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

チューターは授業を影で支える、いわば縁の下の力持ちです。そして、私の場合は思っていたよりも仕事量が少なく、ただ授業に参加しているだけでは何もしないで給与をもらうということになりかねませんでした。今後チューターをやってみようと思う人たちには、チューターを授業のサポート役だと考えず、できる限り主体的に取り組むとよいと思います。チューターの仕事は、具体的に何をするかだけではなく、気持の持ち方一つで変わってきます。チューターを最大限に利用して、授業のサポートだけでなく、目標や課題を持って思いっきり自分を成長させてやろうという気持ちで取り組めば、とても有意義な時間を過ごせると思います。

2009年度春学期　チューター業務を振り返って

所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー　竹内ゼミ

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

・学習内容および業務内容

今回、私は一回生の竹内ゼミを担当させていただきました。

学習内容は主に、文章の作成についてでした。配布されたテキストを使って、文章の表現や作法を学びました。また実際に作文をいくつか書いてもらい、書くことに慣れてもらいました。授業時は3つのグループに分かれて、各グループで作業を進めていきました。

私の業務内容は主に、一回生が書いた文章を添削すること、またグループの一つを担当して、そのグループ内の一回生の面倒を見ることでした。それだけでなく、私も作文を書いたり、先生から問題が出された場合は一緒に考えるなど、授業に参加させていただきました。

・感想

下級生の勉強の手助けをするというのは初めてだったので、色々と戸惑うこともありましたが、良い経験になりました。ただ、今考えると、もっと積極的に一回生に話しかけて交流をもつべきでした。目先の仕事を片付けることに集中してしまい、肝心の一回生の相談相手になることなどができず、反省しています。

仕事の量は、もっと多くても良かったように思います。週一回の授業なので、それほど負担にもなりませんし、授業時だけでなく授業準備や後片付けでも、必要があればチューターにやらせていいと思います。

業務報告を授業が終わった後すぐに書くことができなかったことも反省点です。後でまとめて書いていましたが、記憶が薄れてしまうので、もっとこまめに書くべきだったように思います。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

・提案

業務報告や銀行の振込み依頼書の置いてあるページが中々見つかりませんでした。時々使うので、もう少し分かりやすいところにあるとありがたいです。

活動報告を書くときに、他の人はどんなことをしているのか気になりました。他のゼミの人の活動も見られると参考になると思います。

2009年度春学期　チューター業務を振り返って

所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	佐伯順子ゼミ　ファーストイヤーセミナー

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

今回から初めて学内的にも、私個人的にもチューター制度ということで、手探り状態で毎回試行錯誤しながら取り組みました。

佐伯ゼミでは毎回２名ずつの決められた発表者が自分の関心のあるテーマを設定し、それに対してのマスメディアの報道の仕方や読者・視聴者への影響力などを独自に考察して発表を行います。その発表が終わった後に全員で質疑応答・感想・討論を行います。私たちチューター生は、その討論の際にゼミ生から出た質問にできる限り答えをだし、ゼミ生同士では話題にならなかった問題点等を補足していくことを目標に毎回の授業に参加していました。それがしっかり果たせたと実感できるにはまだほど遠く、自らの力不足を痛感すると共に、１回生のゼミ生のやわらかく自由な発想から為される発表や質問にこちらが勉強させていただいたことが多々ありました。これから自分自身の勉学のレベルアップをしっかりなし、今後少しでも、よりゼミ生や先生の力になることができれば良いと思いました。

この春学期はメディア学の基礎でもある新聞を媒体にした報道の研究が主でした。ゼミ生の方たちは慣れない検索作業をしっかり学び、メディア学科生としての基礎をしっかり学ばれていたと思います。少し気になったのは研究の際に目を通してくる資料数が少々少なく、発表時の添付資料も少ないと感じる方がいることです。それは１回生に限ったことではなく、我々３回生のゼミでも先生や先輩に指摘される人がいます。１回生の方々が今後そういった指摘を受けないようにするためにも今のうちからしっかりサポートしていこうと感じました。今後は雑誌や映像を使っての研究作業も増えてくると思うので、今回の研究方法をしっかり用いて、より広範で深みのあるゼミ研究にしていってほしいと思います。その際に私も何か役に立てるように積極的にゼミ生の方に声をかけ、先輩と力を合わせていきたいと思います。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

一度下級生のゼミ生が上級生のゼミに参加してみることも勉強になるのではないかと思います。

2009年度春学期　チューター業務を振り返って

所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	FYS、メディア学基礎演習Ⅰ、メディア学演習Ⅰ

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

最初に佐伯先生より、チューター業務のお話を頂いた時には、具体的な業務の内容やシステムについて、詳しく知ることができず、非常に困惑した。しかし、わたしが以前からチューター業務に興味を持っていたこと、また後輩のサポートを通して最後の学生生活をより有意義に過ごすことができると考えたことから、不安を残しながらも引き受けることにした。

業務の内容としては、わたしが１～３回生時に実際に行った、新聞・雑誌・映像などについての発表とほぼ同じものを、模範として発表すること、また、チューターとして、クラスでの発表者に質疑応答やアドバイスをして、アイデアを提案したり、学生生活をする上での相談に乗ったりするなど、主にクラスの補助を行った。ただ、先生の隣に座って発表を行ったり、発表者の話を聞いたりするだけではなく、授業の前後にゼミ生と雑談をしたり、様々な相談に乗ったりと、積極的にコミュニケーションをとることに努めた。その結果、早い段階でクラスになじむことができ、後輩が気軽に話しかけてくれたり、授業中もゼミ生の発言数が増えたりと、非常に良い雰囲気を作ることができた。わたしや発表者が難しいテーマで発表をしたときは、クラス全体が発言しにくい雰囲気になってしまうこともあったが、そのようなときには、進んで質問を投げかけ、発言のきっかけを与えることに努めた。終始、先生とチューターの間だけで話を盛り上げてしまわないように気をつけ、全員でなくても、一部のゼミ生からいくつか意見を出して貰いやすいようにしていた。

わたしは１～３回生のそれぞれのゼミのクラスを担当しているが、それぞれのクラスに特色があり、チューター業務を行っていても非常に面白い。わたしがそれぞれのクラスで同じテーマ・内容の発表をしても、それぞれに反応や意見も異なり、毎回とても良い刺激を受けている。驚くのは、１回生のゼミ生の問題意識の高さである。毎回２名ずつ発表をして貰っていたが、実に多くの社会問題をそれぞれが取り上げてくれ、またたくさんの意見も飛び交い、非常に感心した。２回生のクラスは人数が少なく、１人あたりの発表数が必然的に多くなるものの、毎回高度で質の高い発表内容であり、ゼミ生のモチベーションの高さに驚いた。３回生のクラスはまだ一度しか担当していないが、授業中の女性陣の積極的な発言に終始驚かされ、またわたしにも気さくに話しかけてくれ、非常に楽しい時間を過ごすことができた。みんな「先輩」と呼んでくれるので、とても嬉しい。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

わたしは秋学期も引き続き、１～３回生のクラスを担当することになっているため、引継ぎは実質上ないが、できれば今後のチューターにも是非通年で担当して貰いたいと思う。通年で担当することによって、後輩とのコミュニケーションも取りやすくなると考えている。夏休み明けに、早速わたしはいくつか模範発表を行うことになっているので、後輩たちの参考になれるように努めたい。

先生へのリクエストとしては、事前に学期中の授業計画をお知らせいただきたいこと、また各学年のクラスで同一のテーマでゼミ生に発表させ、学年間における認識や着眼点の違いなどを比較できれば面白いのではないかということ、の２点である。

2009年度春学期　チューター業務を振り返って	
所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー柴内ゼミ

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

春学期のチューター業務として、おもに授業の補助と授業準備のための資料整理をした。授業補助では、限りある時間の中で先生がすぐに授業を始められるように、先生がくるまでにパソコンやプロジェクターを起動させ、学生の質問を聞いたりしていた。授業中は、発表時に時間を知らせるベルをならしたり、時間を計ったり、資料をまとめて配ったりと細かい作業で先生をサポートした。授業を一緒に聞いていく中で自分が一年生のころ教わった基本的な知識の再確認ができた。忘れていたこともあり、引用文献の書き方などは、今の自分にとっても為になった。気づいたこととしては、自分が批判的な見方ができるようになっていたということ。発表を見ながら、突っ込みどころを指摘したり、質問を考えたりすることができるようになっていたのだ。自分の成長が確かめられたことは大きかった。

一方で実際、先生方もチューター使用について試行錯誤されているようで、チューター側の私たちもどのように取り組めばよいか少し困惑する場面もあった。上記のように学ぶことや気づきも多かったが、まだ確立されてない感じが否めなかった。

今後は、学生・先生・学校が一体となった学習形態を強固のものとし、主体性をもった人格形成を目指す取り組みに画策していくべきであろう。オンリーワンを目指した教育から、オンリーワンの大学へ。私には同志社大学の未来の展望がみえた。以上が私がチューターを通して感じたことである。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

チューターをしている学生の負担が重すぎる。忙しい中時間を使って授業に参加するなどしているので、必要最低限の提出以外は控えてほしい。

2009年度春学期　チューター業務を振り返って

所　　属	社会学部　　メディア　　学科
担当科目	ＦＹＳ・メディア学基礎演習（浅野）

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

チューターを務めたのは、先生からの何気ないお誘いの言葉を頂いたからだ。「１、２回生の面倒を見るチューターを募集しているんだけど、やってみない？」。そう聞いて、すぐに応募しようと決めた。私自身、１～４回生までゼミ形式の授業を受講してきたが、その時に先輩たちに何度も助けられてきたため、次は自分が学んできたことを後輩に返していきたいと考えたためだ。更に、今までのゼミでの縦のつながりはまだまだ弱く、今年度自分が最上回生となる年に、縦の結束を強めたいと思った。

授業が始まった４月、自分の就職活動が忙しくて、なかなかチューター業務に専念できなかった。始めの自己紹介では１回生の反応が薄く、希望して入ったゼミではないため、彼らには意欲がないのだと考えた。ゼミ以外の時間に話すととても元気な様子で、何を考えているのか疑問に思う日が続いた。

自分の就職活動が終わり、チューター業務に専念できるようになってからは、まだまだぎこちない１回生の雰囲気が気になるようになり、まずは互いのことをよく知ることが必要だと考えた。そこで、かねてから計画していた、ゼミ縦合宿を実施することに決め、ＴＡの院生と協力して、６月にゼミ合宿を実施した。その合宿で実施したディスカッションが忘れられない。朝日放送の報道局長を迎え、その講義を聴いた後に、私たちは縦割りのグループでディスカッションをした。テーマは、放送と報道について。私のグループにいた１回生の学生は、始めは上回生の話を静かに聞いていたが、一言「どう思う？」と尋ねると、積極的に議論に参加するようになった。その姿を見て、彼らには意欲がないのではなく、話すきっかけや、話しやすい雰囲気が普段足りないのではないか、と感じた。

春学期最後のゼミでは秋学期に何をテーマにするか、話し合った。その際に見た１回生は、初めて出会った時の彼らとはまったく別人だった。始めはおずおずとしていたが、１人が話し出すと、次々に新しい意見が出た。結局共同研究をすることに決まり、そのテーマについても様々な意見が出たが、夏休み中の課題となった。秋学期に、更に成長するだろう彼らと一緒に私自身も成長できたら、と今楽しみな気持ちでいっぱいである。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

おそらく、４回生でチューターをする人たちは、自らの就職活動、卒業論文から、自らのゼミ共同研究などでいっぱいいっぱいになるだろう。私自身も、春学期は忙しく、両立するのがかなり大変だった。おそらく、秋学期も忙しくなるのだろうと思うと、少し気が焦る。しかし、時間を有効に使えば、チューター業務は重荷ではなくむしろ、自らも成長できる課題となるはずだ。１回生と、授業中だけでなく、心と心の付き合いをできるまでになれば、よりよいチューター業務ができると思う。私自身も、そこを目指して、秋学期も励むつもりである。